

早期探知・地域連携システム 【感染症神戸モデル】について

1 創設の経緯

2009年5月に新型インフルエンザが発生し、検証報告において、以下の3つの提言がなされました。

- ①感染症の発生を早期探知するしくみが必要
- ②感染症早期探知と感染拡大防止には、地域の施設（社会福祉施設・学校・医療機関等）と保健センターのネットワークの構築が必要
- ③地域の施設の自助・共助の力の向上が必要

上記の提言を受け、2009年9月に【感染症神戸モデル】が創設されました。

2 目的

地域の施設（学校・保育施設・社会福祉施設・医療機関等）と保健センターが連携してネットワークを構築し、感染症発生を早期に探知し、迅速に対応することによって、感染拡大を防止し、地域全体で感染症に対する対応力を向上します。

3 活動内容

1) 早期探知

感染症が疑われる**有症状者が1週間以内に2名以上**発生した場合にご報告をお願いしています。保健センター保健師が施設職員とともに感染症の拡大防止にむけて対策を検討します。

※令和6年4月以降、新型コロナウイルス感染症についても2名以上の発生でご報告をお願いします。
ただし新型コロナウイルス感染症の感染力が低下したわけではありません。新型コロナウイルス感染症や、他の感染症においても、対応等でお困りのことがありましたら、区保健センターにご相談ください。

2) 地域連携

①施設巡回

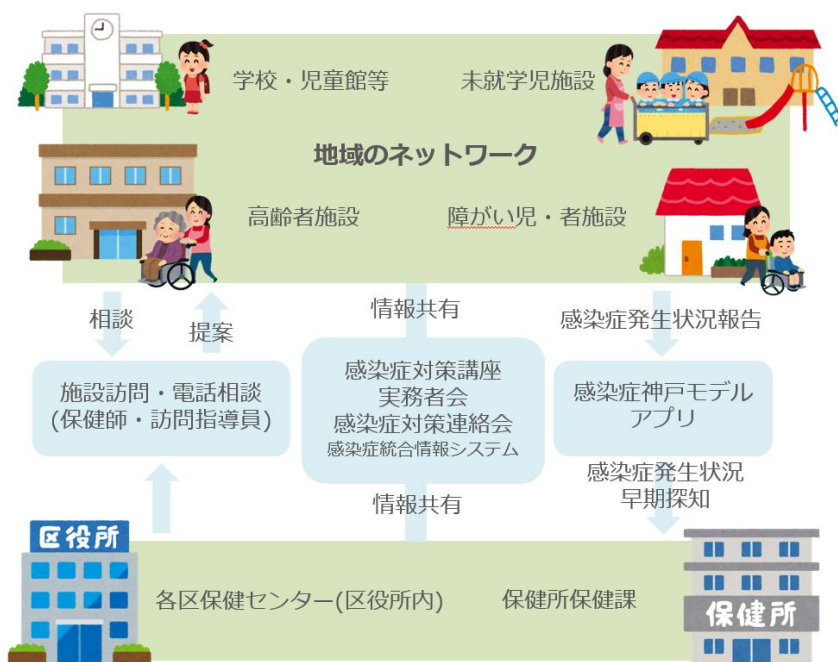
社会福祉施設、学校等を保健師や感染症訪問指導員が巡回し、平常時から感染症予防策について連携を図ります。

②感染症対策講座

感染症対策講座において施設の実務者へ実習を含む研修を実施します。

③情報発信

地域の感染症の動向について、神戸市公式ホームページや神戸市感染症統合情報システムでタイムリーに情報発信を行います。



神戸市感染症
統合情報システム